

JIVE REPORT Ver 6.1 アプリケーション開発キット

帳票の作成／管理から電子帳票システムの構築までをトータルにサポートするツール

せきぐちくみこ
SEKIGUCHI, Kumiko

問合先 株式会社ジャイブコンピュータ
TEL 052-219-8551 URL <http://www.jive-comp.co.jp>
FAX 052-219-8552 MAIL info@jive-comp.co.jp

動作OS Windows 95/98/Me/NT4.0/2000/XP 対応開発環境 Visual Basic 5.0/6.0、Visual Studio.NET

備考 Visual Studio.NETはCOMラッパーにより使用可能 価格 95,000円(税別)

はじめに

業務システムにおいて帳票作成は欠かせない機能です。市場には、帳票作成を支援するツールが数多く出回っているのも、需要が高いことの表われでしょう。

今回紹介する「JIVE REPORT Ver 6.1」(以下、JIVE REPORT)は、株式会社ジャイブコンピュータが開発/販売を行なっている帳票作成ツールです。高度な表現力をもった帳票を効率的に作成できるだけでなく、昨今、急速に需要が高まりつつあるWeb環境での帳票システムを簡単に構築できる点においても、注目度の高い製品です。

製品の概要

JIVE REPORTは、どんな複雑な伝票や帳票でも簡単に作成できることを主

表1: JIVE REPORTの製品構成

ツール	標準版	アプリケーション開発キット
レポートエディタ	○	○
レポートマネージャ	○	○
レポートライブラリ	×	○
プレビューコントロール	×	○
VBコードウィザード	×	○

眼に置いた帳票作成ツールです。通常の帳票作成や印刷はもちろんのこと、フォームの作成や電子帳票システムの構築までをトータルにサポートします。

製品は、Excelなどのデータを使って手軽に帳票を印刷したり、電子帳票を管理したいユーザー向けられた「標準版」と、独自の帳票ソフトを開発したり、Web環境での帳票システムを構築するといった、より高度なニーズをもった開発者向けの「アプリケーション開発キット」が用意されています。製品構成の違いは、表1のとおりです。

今回は、開発者向けの製品である

「アプリケーション開発キット」を紹介してゆきます。

製品の構成

JIVE REPORTは、帳票のデザインを行なう「レポートエディタ」、作成した電子帳票を管理する「レポートマネージャ」、アプリケーション開発に使用する「レポートライブラリ」と「プレビューコントロール」、そして、Visual Basic(以下VB)での開発を支援する「VBコードウィザード」から構成されています。それぞれのツールの機能は、次のようになっています。

■レポートエディタ

レポートエディタは、豊かな文字表現力と高度なグラフィック機能を備えた帳票フォーム作成エディタです(図1)。ワープロなみの機能と操作性で、複雑な帳票イメージも簡単に実現できることが大きな特徴となっています。

また、JIVE REPORTでは“ページ”という概念を導入しており、ページごとに用紙サイズや用紙方向の異なるフォームも作成することが可能です。さ

本稿で使用した環境

O S | Windows XP Professional
開発環境 | Visual Studio.NET Enterprise Architect (SP2)
C P U | Athlon XP 1800+
メモリ | 512MB
その他 | Internet Information Services 5.1、SQL Server 2000 (SP2)

この記事で解説しているサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DMAG¥NEWPRO_JIVEフォルダ以下に収録しています。

¥JIVEOCXWINAPP : Windows フォームのサンプルプログラム
¥JIVESAMPLE : Web フォームのサンプルプログラム

注) 付録CD-ROMの¥DMAG¥DEMO¥JIVEフォルダに「JIVE REPORT Ver 6.11 アプリケーション開発キット」の体験版を収録しています。

図1：レポートエディタ

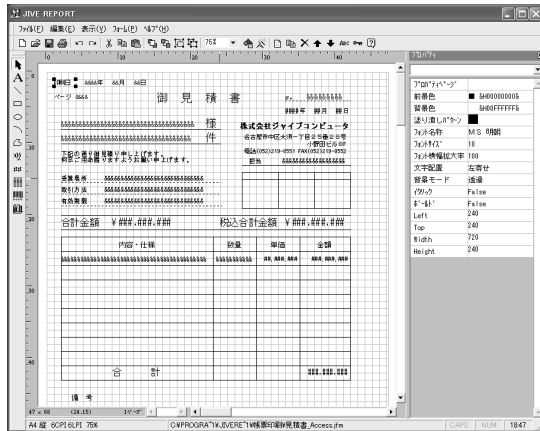


図2：レポートマネージャ



らに、複数の文字や図形をひとまとめにして“パーツ”として登録することができます。社名やロゴ、住所、電話番号といった使用頻度の高い要素をパーツとして登録しておけば、帳票フォーム作成時の効率も上がります。なお、作成した帳票フォームは、「.jfm」という拡張子のファイルとして保存されます。

また、レポートエディタは、帳票フォームにAccessやExcel、テキストファイルなどからデータを取り込んで、帳票を印刷したり、電子帳票として出力する機能も提供しています。

■レポートマネージャ

レポートマネージャは、レポートエディタやレポートライブラリで作成した電子帳票を管理するためのツールです(図2)。保存されている電子帳票のツリー表示や検索、印刷ができるほか、帳票に承認印やコメントを残すことも可能です。

また、レポートマネージャは、利用するユーザーやグループを管理する機能も提供しています。電子帳票ファイル自体にもアクセス権が設定できるので、電子帳票の不正使用を防ぐ対策も万全です。

■プログラミングインターフェイス

JIVE REPORTのアプリケーション開発キットでは、帳票印刷用インターフェイスを提供する「レポートライブラリ」と、プレビュー専用のActiveXコントロールである「プレビューコントロール」が提供されています。どちらも再配布可能なライセンスで提供されているので、アプリケーションと一緒に配布することが可能です。

■ JL レポートライブラリ

レポートライブラリは、DLLタイプのレポートライブラリDLL(jvreport.dll)とActiveXコントロールタイプのレポートライブラリOCX(jvrlib.ocx)の2種類で提供されています。

レポートライブラリDLLは、DLLを利用できる言語での開発が可能です。Visual Basic.NET(以下VB.NET)やASP.NETから使用するとき、関数や定数を宣言したファイル「Vb_NET_Dll.vb」^[注1]をソリューションに追加する必要があります。

レポートライブラリOCXは、VBプログラマに馴染みの深いプロパティとメソッドという形式で機能を提供しています。なお、レポートライブラリOCXを使うときには、ソリューションに「Vb_NET_Ocx.vb」^[注1]を追加します。

どちらも機能的には大きな違いはありません。帳票の出力先には、ウィンドウ、プリンタ、ビットマップ、電子帳票ファイル(.ERF)、プレビューコントロール用の出力フォーマット(.CMF、.RDF)を指定することができます。ただし、ASP.NETからの利用の場合は、プレビューコントロール用の出力フォーマット(.RDF)だけになります。

■ JW プレビューコントロール

プレビューコントロールは、帳票イメージの表示および出力を行なうためのコントロールです。ページ移動や表示の拡大/縮小など、プレビューに必要な機能をすべて揃えているうえ、レポートライブラリと同様にプリンタやビットマップ、JIVE REPORT独自のフォーマットに出力することが可能です。

プレビューコントロールは用途別に3種類提供されていて(表2)、3つのコントロールの使用法はほとんど変わりません。2種類あるWebアプリケーション用のコントロールの違いは、サポートしているイメージ形式が異なることです。「Jvitview.ocx」は、描画できるイメージの形式の数が「jvitvimg.ocx」

注1) ¥ JIVE REPORTのインストールディレクトリ¥includeにインストールされる。